

## ヤツガシラの繁殖習性の観察

宋 策

(遼寧省蚕業科学研究所)

訳 福井和二

**摘要** 1993~1995年の3年間、遼寧省鳳城地区においてヤツガシラの繁殖習性を観察した。ヤツガシラは毎年3月中旬に渡来し、9月下旬に此の地を去る。毎年繁殖は2回、4月中旬から7月末までに行なわれる。1巢の卵数、初回は9~10、次回は5~7であった。雌は産卵をしながら抱卵を始める。抱卵期間は第1巢が18日、第2巢が15日であった。孵化率は第1巢82.1%、第2巢100%、育雛期間28~30日、繁殖成功率は第1巢33.3%、第2巢25%であった。

遼寧省鳳城地区に分布するヤツガシラ (*Upupu epops*) の亜種 (*U.e.saturata*) は夏鳥で、数は多くないが、比較的に見かける鳥である。ヤツガシラの繁殖習性について、今までの報告はすべて年1回の繁殖であったが、筆者が本地区で、3年間にわたって調査した11巢全てが、連続して2回繁殖したので、以下に報告する。

## 1. 活動状況

ヤツガシラは毎年3月中旬渡来し、9月下旬に去る。渡りは、多くが単独で行なわれ、群れをなして渡る様子を見たことがない。滞在期間は約半年間、その活動範囲は広く、低山地帯の耕地、村落、林縁部など全てが彼らの行動範囲である。特に林縁の耕地で多く見かけ、すべて単独行動である。

## 2. 営巣

4月中旬にヤツガシラは営巣を始める。巣穴は樹洞を多く使い、土堀の穴、家屋の屋根瓦の下、などに営巣し、その造作は非常に簡単で、僅かな雑草を敷いただけのものである。軒の瓦下に巣を構えたものは厚く敷かれた木屑の層(当地では家屋の瓦と天井板の間に木屑を敷くことがあり、ヤツガシラは軒下に潜入し、そのまま木屑を巢材とする)を脚で掻き分け、浅い窪みを造り、巢穴とする。3年の間に観察した11巢のあった場所を表1に示す。

## 3. 産卵と抱卵

ヤツガシラは毎年4月19~20日に産卵を開始した。3巢の観察によると、毎日1卵、連続して9~10卵を産んだ。卵は楕円形、白色、灰白色、灰褐色で、9卵の計測によると長径23.8(23.0~24.2)mm、短径16.0(15.5

~16.2)mm、重量3.0(2.7~3.2)g (n=9)であった。雌は卵を産みながら抱卵し、期間は18日で孵化、孵化率の平均は82.1%であった。雛の孵化時間の差は、1巢9卵が毎日1羽ずつ孵化する雛たちにとって、体の大小に大きく影響する。その差は36.8gに達する。同一巢内の卵と9羽の雛について測定した結果を表2と表3に示す。

表1 ヤツガシラの営巣場所

年度	樹洞	土堀の穴	屋根瓦の下
1993年	1	2	1
1994年	1	1	1
1995年	1	1	2

表2 ヤツガシラの1巢中の卵のサイズ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均
卵長 mm	23.5	23.0	24.0	23.0	24.0	23.0	24.2	24.0	23.7	23.8
卵幅 mm	16.2	15.9	16.0	16.1	15.9	15.5	16.0	16.2	16.0	16.0
卵重 g	3.1	2.7	3.0	3.0	3.0	2.7	3.2	3.0	2.9	3.0

表3 ヤツガシラの1巢中の雛の体重

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
体重 g	2.8	3.2	3.4	5.2	16.8	28.1	32.0	38.8	39.6

孵化後の卵殻や雛の糞便を親鳥は処理しない、したがって、巢のなかは汚れ、臭気が強い。ヤツガシラの別称“臭鳩鳩(臭い鳥, 臭いシャコ)”と云われる所以である。

#### 4. 育雛

抱卵期から雛が全部孵化し、さらに4日ほどの間は、雄は単独で、抱卵中の雌に餌を運び、孵化が始まってからは、先に孵えた雛の餌も運ぶ。雄は運んできた餌を巢の外から雌に渡し、決して巢へ入ろうとしない。雌は受け取った餌を食べるか、孵化後は雛に給餌する。全卵孵化後4日たつと雌は巢を出て、雄とともに餌を取り、雛の給餌に参加する。此のころから親鳥は、給餌のために巢へ入るが給餌が終わるとただちに巢を離れ、いつまでも巢にとどまることはない。観察によると1日平均の給餌回数は136回に及び、6:00~7:00, 14:00~15:00, 17:00~18:00と3回のピークが見られた(表4)。たとえ、このように頻繁に給餌をしたとしても、すべての雛の要求を満たすことは保証されない。観察した3巢では、最後に巣立ちした雛は2~3羽で、平均繁殖成功率は33.3%であった。

表4 ヤツガシラの1日給餌回数

時間	給餌回数	頻度%	時間	給餌回数	頻度%
4:00-5:00	11	8.1	12:00-13:00	10	7.4
5:00-6:00	9	6.6	13:00-14:00	9	6.6
6:00-7:00	15	11.0	14:00-15:00	14	10.3
7:00-8:00	7	5.1	15:00-16:00	8	5.9
8:00-9:00	11	8.1	16:00-17:00	5	3.7
9:00-10:00	7	5.1	17:00-18:00	16	11.8
10:00-11:00	2	1.5	18:00-19:00	7	5.1
11:00-12:00	5	3.7	合計 15h	136	100

#### 5. 雛鳥の発育

1日齢(5月8日)孵化したばかりの雛の体色は深い肉色で、わずかに乳白色の絨毛がほやほやと生えている。目は灰黒色で開いていない。加齢とともに少しずつ隙間が開いてくる。翼は赤裸の無毛。雛は少しずつ動いて“ti,ti”と鳴く。

4日齢(5月11日)頭頂の中線の両側に各9枚の長く粗い黒色の羽軸が生えはじめる。嘴は灰褐色。眼は淡灰褐色、瞼は開く。翼と肩上に長い羽軸が生える。

8日齢(5月15日) 耳羽, 胸側および腹側の羽軸の先端が破れ, 羽が見えはじめる。成長はきわめて早くなる。

12日齢(5月19日) 尾羽, 冠羽の羽軸先端が破れ羽毛がのぞきはじめる。体全体が羽毛で覆われはじめ, 立って歩くようになる。

16日齢(5月23日) 羽毛はますます豊になり, 冠羽は親鳥と似て, 基部は鳶色, 先端は黒となる。翼には2筋の白斑が現われ, 次列風切羽末端が赤白色に変化する。上嘴が長く伸び, 下嘴が短い。

20日齢(5月27日) 次列風切羽に2筋の白斑が現われ, 三列風切羽の羽縁が赤白色になる。初列雨覆が黒くなり大雨覆に2筋の白斑が現われる。

24日齢(5月31日) 初列風切の中ほどに2筋の白斑ができ, 次列風切に4列の白斑が, 三列風切の羽縁が褐色を帯びた白に, 大雨覆に2本の白斑が現われ, 一部には3条目の白斑が現われるものもある。

28日齢(6月4日) 親鳥は雛を巣の外に呼び出して餌を与えるようになる。先に巣立ちした雛は付近の枝や, 家屋の屋根にとまって, 給餌を受ける。

2日ほどの間に全部の雛が巣立ちし, 親鳥は雛たちを連れて巣をはなれる。雛たちの成長は非常に早く, 独立して生活を始める。雛の前期の成長状況を表5に示す。

表5 ヤツガシラの雛(1~11日齢)の体位測定

日齢	体重 g	全長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	ふ蹠 mm
1	2.8	45.0	5.0	6.0	6.0
2	3.2	51.0	6.0	9.5	7.0
3	3.4	55.0	6.5	16.0	9.0
4	5.2	60.0	7.2	17.5	12.0
5	16.8	75.0	10.0	31.0	16.5
6	26.1	104.0	12.0	33.4	22.0
7	32.8	115.0	12.4	39.8	24.0
8	38.8	116.0	14.0	51.1	28.0
9	39.6	117.0	15.0	55.0	28.0
10	50.5	152.0	15.6	56.0	29.0
11	51.3	155.0	16.5	62.0	29.5

## 6. 2回目の繁殖状況

1回目の雛の巣立ち後, 親鳥は, もとの巣をそのまま使用するか, あるいは, 付近に新しい巣を造るかして2回目の繁殖を始める。2回目の第1卵は6月10~11日(2巣の観察による)に産卵し, 毎日1卵づつ産み, 1巣5卵および7卵であった。抱卵日数は15日間, 孵化率100%, 育雛期間は28日と30日, 繁殖成功率は25%であった。